

## 令和2年度 社会教育委員会（第5回）議事要旨

◇日 時

令和3年2月2日(火)午後7時～9時15分

◇会 場

生涯学習センター 1階 団体活動室

◇出席者

【委員】小松委員、鈴木委員、大西委員、松本委員、大島副委員長、西島委員、大庭委員、土屋（浩）委員、土屋（八）委員長、横山委員、高橋委員、小田委員

【事務局】大塚生涯学習課長、高橋係長

【オブザーバー】勝又主査

◇会議次第

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 報告事項

①各種委員会の報告等

②市民活動の集いの報告について

4. 協議事項

①裾野市の未来につながる地域コミュニティづくりについて

5. その他

・文化協会より

・第6回会議の日程について

6. 閉 会

## ◇審議経過

主な内容は次のとおり（○は委員の発言）

### 1. 開 会

### 2. 委員長あいさつ

今回は提言書作成前の最後の会となるので、たくさんの意見を出してほしいです。新型コロナウイルスもなかなか終息しませんが、市民活動の集いは皆さんの協力もあり大盛況に終わりました。リモートは初めての経験でしたが、顔も良く見えてよかったです。時代は変わっていくので、私たちも変わっていかなければと考えさせられました。今回の市民活動の集いのアンケートは、意見がたくさん記入があり、市民の声として提言に入れていけたらと考えています。

### 3. 報告事項

①各種委員会の報告等  
特になし

②市民活動の集いの報告について

自治会関係者 16名、市民協働によるまちづくり推進協議会委員 3名、スクールコーディネーター 5名、コミュニティ・スクール準備委員 6名、学校関係 11名、その他 6名、社会教育委員 9名 の合計56名の方に参加していただきました。

### 4. 協議事項

①裾野市の未来につながる地域コミュニティづくりについて  
別紙

### 5. そ の 他

・文化協会より

大島副委員長より、裾野市文化協会による「出前文化交流メニュー」の説明

・地域づくり学習会について

令和3年3月14日（日）午後1時から、文化センターで開催されます。正式文書は後日お渡ししますが、是非、お時間に都合がつけば今回のテーマに関連する内容ですのでご参加ください。

・第6回会議の日程について

次回開催日： 3月9日（火）19：00～ 生涯学習センター 1階 団体活動室

---

### 6. 閉 会 大島副委員長

## 裾野市の未来につながる地域コミュニティづくり

- 平成 29・30 年度の提言により、地域コーディネーターの必要性を訴えた。
- 令和元・2 年度で実現可能な方法を考えたい。

### 【令和元年度市民協働の集い】

- (1) 嶽南ふるさとによる裾野市の地域活動の発表。
- (2) 宮城県大崎市の池月地域づくり委員会の事務局（池月サポートセンター）の高橋氏による講演。

○地域運営組織（RMO）である、池月地域づくり委員会をいずれは目指したい。

○地域運営組織を維持していくためには、維持していくためのお金を生み出さないと行かない。それには、指定管理を受ける等収入を得る必要がある。

○交付機で事務局の人件費は出るものの、関わるスタッフ全員の人件費まではまかなえない。

○地域運営組織に向けて、今出来ることから始めていくことが必要ではないか。

### 【令和 2 年度市民活動の集い】

- (1) 小濱指導主事による「裾野市のコミュニティ・スクールの現状」の講演。
- (2) 志々田まなみ氏による「学校とともにすすめる地域づくり」の講演。

○「学校運営協議会」とは、地域と学校の思いを合わせる場である。しかし、現状、地域の思いがまとまっていない。

○地域の思い（ビジョン）をつくる場が必要である。

○地域に多様な人がいる中で、どういうコミュニティを作りたいのかというベクトルを同じ方向にしないと行けないのではないか。

○コミュニティ・スクールに係わることによって、市民の目が地域に向くのではないか。

○社会教育の目的として「人間関係づくり」がある。その人間関係を実現するには、地域づくりが必要である。例えば、いろいろな世代も含めて、大人同士のつながりができている地域などという思い（ビジョン）が必要ではないか。

○地域コーディネーターが中心になり、地域が活性化していくような活動が必要。

○地域コーディネーターを作るきっかけとして、コミュニティ・スクールを活用。

○地域コーディネーターは、地域の人間関係づくりを目指し、そのような機会を促してくれる人になりたい。

○地域のビジョンを 1 つにする為、「語る場が必要」という意見が出てきている。

#### 《参加者アンケートより》

- 地域の思いが、現状は 1 つになっていないのではないか。
- 地域の思いをまとめるような「場」が必要ではないか。

○地域コーディネーターとCSディレクターが同じ人なら、地域の思いが学校へ伝わりやすいのではないか。

○地域の思いを語る場を作ることによって、地域の人意識改革を行い、人間関係を作っていく方向へもっていきたい。その足がかりとして、コミュニティ・スクールを活用していく。そこから、「まとめる人が必要だ」（地域コーディネーター）という方向へもっていきたい。